

木津川市地域公共交通総合連携協議会 会議結果要旨

会議名	第46回木津川市地域公共交通総合連携協議会		
日時	令和元年8月8日(木) 午後2時～午後4時	場所	木津川市役所 4階 会議室4-3
出席者 出席者・・・■ 欠席者・・・□	委員	<p>【学識経験者】</p> <p>■中川 大(副会長) ■大庭 哲治委員</p> <p>【市民代表】</p> <p>■杉本 美保委員 ■長野 博行委員 ■福本 桂子委員</p> <p>■神野 勝三郎委員 ■大村 裕信委員 ■平田 克子委員</p> <p>□行衛 満委員 □中島 英一委員</p> <p>【事業者】</p> <p>■梅澤 浩二委員 ※代理：松中 紗恵子(西日本旅客鉄道株式会社総務企画課)</p> <p>□山本 恒平委員</p> <p>■米田 佳弘委員 ※代理：木村 一朗(奈良交通株式会社乗合事業部統括課長)</p> <p>■津田 秀夫委員 ■足立 高広委員 □大江 正泰委員</p> <p>□梅田 幹夫委員 □加藤 隆委員 □霜永 勝一委員</p> <p>【行政機関】</p> <p>■岩崎 靖彦委員</p> <p>■永見 晃之委員 ※代理：廣岡尚朗(京都国道事務所計画課調査係長)</p> <p>□井関 洋人委員 ■春名 靖弘委員</p> <p>■岡島 永治委員 ※代理：藪内 弦(京都府木津警察署交通総務係長)</p> <p>□河井 規子会長 □田中 達男委員 ■福田 訓男委員</p>	
	その他	<p>【オブザーバー】</p> <p>■原 辰幸委員 ※代理：辻本 幸治(国土交通省近畿運輸局交通政策部交通企画課専門官)</p>	
事務局	鶴見政策監、武田事務局長、奥田事務局次長、比志島係長、宮本主任		
傍聴者	3名		
議題	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①第2次木津川市地域公共交通網形成計画の策定について【資料1～8】</p> <p>(2) その他</p> <p>①次回協議会の日程について</p> <p>②その他</p> <p>3. 閉会</p>		
会議結果要旨	<p>1. 開会</p> <p>事務局より開会の宣言があった。</p> <p>2. 議事</p>		

	<p>議長から運営内規に基づき、会議録の署名委員として平田委員を指名した。</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①第2次木津川市地域公共交通網形成計画の策定について 資料1～8に基づき、事務局から説明があり、計画策定方針やアンケートの実施について、次回協議会で引き続き協議することとした。</p> <p>(2) その他</p> <p>①次回協議会の開催日程について 後日通知することとした。</p> <p>②その他</p> <p>3. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p> <p>◎議長 ○委員 →事務局</p>	<p>1. 開会</p> <p>→：前回協議会で質問があった2件について報告する。市内の高齢者の交通事故件数は、平成28年が55件、平成29年が43件、平成30年が22件であり、これらの数値から市内の事故件数は減少していると判断することができる。もう1点、「木津川市の予算のあらまし」に記載されている、市予算におけるコミバスの運行事業費であるが、きのつバスが53,153千円、かもバスが18,417千円、やましろバスが3,870千円の予算を計上している。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 協議事項</p> <p>①第2次木津川市地域公共交通網形成計画の策定について</p> <p>【配布資料】資料1 第2次木津川市地域公共交通網形成計画の策定について 資料2 現状報告からみた市の公共交通の現状と課題 資料3 木津川市公共交通に係る現況報告 資料4 木津川市の地域公共交通に係る現状指標 地域別カルテ 資料5 木津川市地域公共交通網形成計画 計画事業の評価について 資料6 第2次木津川市地域公共交通網形成計画の概要について 資料7 アンケート調査 資料8 コミュニティバス新規路線の検討について</p> <p>【主な意見・質疑等】</p> <p>■木津川市公共交通網の現状報告について</p> <p>○：現状報告ということだが、何が課題で、その中で重要な課題はこれであるというような問題提起がされていないのではないかと。</p> <p>◎：全体の流れを説明していただきたい。</p> <p>→：まず、現状と課題を抜き出し、前回説明できなかった現計画の事業評価の説明を行う予定である。それに基づき、第2次計画の策定方針の説明を行い、併せてアンケートの実施について説明し、最後に、新規路線の考え方について事務局からの提案を説明し、協議会で意見をいただくことを考えている。</p> <p>○：これらの課題を全部解決するのは難しいし、時間もかかるということで、事務</p>

局としてこの中で重要な課題と考えていることを提案していただきたい。

- ◎：資料2の中には、事務局が重要だと考える現状と課題が書かれているはずである。これがそうではないということであれば、具体的に指摘いただければと思う。文章が長すぎるので、もう少し簡潔に書いた方がいいというご指摘であるのか。
- ：課題が書かれているだけでは、あっさりし過ぎてあまりにも不親切ではないか。
- ：資料3と資料4を分析した中で、事務局で現状を踏まえた課題を抽出したものを資料2にまとめており、その内容について説明したところである。
- ：パーソントリップ調査とはどういうものか。
- ：人の動きを地域別交通手段別等に調べる調査で、平成22年が最新となっている。
- ：資料2で現状と課題として6項目があげられており、人口推移については、高齢化率が40%を超えている地区もあるとの記載で終わっているが、この場でどうするかを検討しろという主旨なのか。
- ：現状として高齢化率が40%を超えている地区があるため、これを踏まえて加茂地域や山城地域にコミュニティバスを走らせており、引き続き維持していかなければならないと考えている。また、今後高齢化が進行していく中で、公共交通が果たす役割が重要になるので、網形成計画に活かしていくものだと認識している。
- ：事務局として課題提起をしたのであれば、それにどう対応していくということが必要ではないのか。
- ：計画を立てる際には、現状と課題の分析が必要であることから、本資料は計画策定に向けて最初に現状と課題として分析したものである。課題解決も含めてこれから計画を立てていくということである。
現状認識として、高齢化率が40%を超える地区もあるということを示したものであり、この資料は、人口減少対策を講じて行こうという性格のものではないということをご理解いただきたい。
- ◎：計画なので、最終的にどうすべきかというのを決めるのは当然であり、ここはあくまで現状と課題の把握である。しかし、現状がわかりにくいのではないのか。市の公共交通は増えているのか減っているのか。
- ：鉄道はこの10年間で横ばいから微減であり、網形成計画が策定された平成27年度からみても微減となっている。路線バスは、平成26年度からのデータしかないので奈良交通に平成21年度以降のデータ提供をお願いしているところである。平成26年度からみると15万人増加しているが、前年度からは減少している。コミュニティバスは5年前と比べるときのつバスとかもバスは減少、やましろバスは微増であり、コミュニティバス全体としては減少している。平成26年度と比較すると、路線バスとコミュニティバスを合わせたバスの利用者数は増、鉄道は減である。
- ◎：鉄道とバスを合計した全体のデータが重要であるので、それをどこかに記載すべき。計画期間のデータはもちろんであるが、それ以前についてもさかのぼれるものはさかのぼりトータルを出していただたく。それが基本となり、その中で人口の増減がわかれば、人口1人当たりで、公共交通利用者が増えているのか減っているかもわかる。
- ：人口推移のところであるが、高齢化率が40%を超えている地区もあるというこ

となので、地区別の高齢化率のデータがわかる一覧があれば示してほしい。

→：次回までに小学校区別高齢化率のデータを送付する。加茂地域では、瓶原地区、当尾地区、南加茂台地区は40%を超えている。

◎：公共交通分担率は2010年のデータしかないが、近年の変化がわかるような代替可能なデータはないか。

→：他にデータがないか調べてみる。

◎：国は基本統計に係る予算を削っており、ちゃんとしたデータがなく、交通計画をどうつくっていけばいいか、わからないという状況になり、こういったところでも世界水準から相当遅れつつある。木津川市に限ったことではないが、交通を議論するのに10年前のデータしかないというのは、寂しい状況である。変わっている可能性もあるので、公共交通の利用者数から分担率を類推することができるだろう。市全体の交通分担率は重要なデータであるので、注目していただきたい。計画を立てる際には、人口も重要であるが、鉄道やバスの分担率がどれくらいであるかが重要である。京都府全体のデータと比較すると木津川市の分担率は低いということであるが、京都市を除いた分担率と比較してはどうか。地方都市の中で木津川市の分担率16.3%はそう低い方ではないだろう。本会議は、公共交通の利用促進が目的であるので、京都府全体と同じくらいのレベルを目指すなど、このあたりでも目標数値が出てくるかもしれない。公共交通分担率はキーワードのひとつになるので、市の16.3%という数値は覚えていただくといいかと思う。ただし、繰り返しになるが、2010年のデータなので、その後変わっている可能性もある。

○：現状分析から問題を提起して、議論して、結論にいたるというプロセスに至るのが普通である。現状と課題を提出されるのであれば、特に重要な問題を事務局として提起していただきたい。

◎：要は長過ぎるということか。現状と課題であるので、要点をまとめて、箇条書きにした方がよりわかりやすい。

■第1次計画の検証について

→：先程質問があった市全体の公共交通の利用者数について報告を行う。平成26年度は13,364,200人、平成30年度は13,774,779人、平成26年度比で410,579人、4%増である。平成29年度比では、8万人ほど減っている。これはおそらく地震等自然災害の影響でバスの運休が多かったためであると推測している。

◎：パーソントリップ調査の年次である平成20年度のデータがわかれば。

→：奈良交通のデータが揃っていないので、次回協議会で提出させていただく。

◎：全体としては、計画期間中に公共交通の利用者は増えているということである。PDCAサイクルである計画事業の評価について何かご意見等があれば。

○：計画事業の評価は事務局としてこのようにまとめたということであるのか。評価主体は誰になるのか。

◎：網形成計画の中に計画事業の評価を書いていくことになるので、協議会として我々が評価しなければいけない立場である。本来我々が評価としてまとめなければいけないものを、市が事務局としてまとめたものである。この場で議論することであるので、何かご意見があれば。

○：「施策3 車両の利便性向上」について、バリアフリー車両の導入促進については、きのつバスは達成しているということであるが、その他が達成できていないのはどうしてなのか。

○：かもバスの一部とやましろ線は、バリアフリーに対応できていない。これは、道路形状の問題によるものであり、急こう配や急カーブの道は、車高の低いバリ

アフリー車両では対応できないためである。

- ：「施策7 魅力の発信」について、奈良交通のゴールドパスは、奈良交通全線ときのつバスで利用できるのも、施策のひとつとして評価できるのではないかと。なお、きのつバスだけでなく、全コミュニティバスでも利用できるようにしていただき、また、市から金額の一部を補助するような施策があってもいいのではないかと。
- ：奈良交通のゴールドパスは、以前は1年券があったが、3ヶ月券と6ヶ月券のみになっている。また、1回100円で利用できたが半額になった。
- ：ゴールドパスをお買い上げいただくと、1回100円で乗車できたが、パスの基本部分の金額を下げ、代わりに1回あたりの利用料金を100円から半額の子どもの料金とさせていただいた。
- ◎：先程の提案（奈良交通ゴールドパスへの補助）については、計画の中に盛り込んでいくかどうかを議論していくことにしたい。達成出来ていないこともあるため、それも含めて次の計画で検討していく。

■第2次計画の策定方針について

- ◎：これでは計画の策定方針になっていないのではないかと。アンケートで何か出てきてから考えようということか。
 - ：現状分析や第1次計画の評価に加え、利用者等のニーズを把握するためのアンケート調査等の実態調査によりニーズの把握を行い、関係機関との連携も含めて、公共交通の利用促進が図れる計画となるような方向で進めていきたいとする策定方針案である。
 - ◎：要するにアンケートで出てきてから考えようということか。それでは計画とはいえない。
 - ：方向性は次回協議会で骨子として提案する予定である。
 - ◎：今日、方針を出さないといけないのではないかと。
 - ：クラスター型とはなにか。
 - ：ぶどうの房という意味であり、まちづくりが固まって広がっていくイメージをクラスター型という。
 - ◎：クラスター型は交通網が整備されないと成立しない概念である。平成31年3月に第2次総合計画が策定されているが、クラスター型の都市構造を目指すことについて本協議会への諮問はあったのか。
 - ：本協議会への諮問はない。都市計画マスタープランにおいて都市機能が有機的に連携したクラスター型の都市構造を目指すことが定められており、総合計画もその考え方に基づいている。
 - ◎：クラスター型は、クラスター間の移動を伴うことが前提であるので、しっかりと公共交通網をつくっていかねばいけないということである。総合計画に書かれていることであるので、その考え方の中で我々は議論しなければいけない。
- 前回協議会でも申したが、アンケートをやってから考えようということではダメだから、全体の方針を考えてから、アンケートをしようということで、本日の協議会を開催しているはずである。
- 資料には、第1次計画を踏襲すると書かれており、第2次計画の一番大きな方針は第1次計画の基本方針を引き継いでいくということである。総合的な交通計画は変わらないほうがいいので、これは良いことである。第1次計画で決めたことができてないことがあり、あまりにもコミュニティバスに偏った計画になっているので、公共交通全体の計画を出していかねばいけない。引き継ぐことに加

えて何をするのかについては、高齢ドライバーの交通事故に係る運転免許証の返納・公共交通への転換の動き、事業者の運転手不足など急変する社会情勢に対応するためにアンケートで聞いてみようという文章になっているが、これでは計画策定になっていない。

→：基本的にはこういった課題を踏まえて計画案を作っていきたいと考えている。その他の補完的な部分として市民や利用者のニーズを確認したい。

○：アンケートをして計画を立てると言っていたのに、補完とはどういうことか。

→：アンケートの内容を踏まえて計画を策定するということである。

◎：要するにアンケートをしてから計画を考えようということか。

○：膨大な資料が提出されているが、前回の議論からひとつも進んでいないのではないか。市としてどうしたいのかをはっきり提示してはどうか。

→：前回の指摘事項を踏まえて、計画の策定方針を立てるために、公共交通の現状把握ということで、バスの利用状況等の現状報告と課題をまとめている。また、第1次計画を検証し資料として今後の課題や方向性をまとめている。それらを踏まえ策定方針をまとめ、それについてアンケート内容やコミュニティバスの新規路線の考え方を整理したのが、今回の提案の内容である。

◎：前回協議会からのプロセスを踏まえたという説明である。しかし、策定方針と呼ぶべきものが提示されていないように見え、とりあえずアンケートをやってみようというように思えるので、このままアンケートを進めることが得策なのか。こういう計画にしていきたいという事務局としての思いを事前の打ち合わせ時には聞いていたが、本日の資料には特筆すべきことが何も書かれていない。前回も言ったが、アンケートをして計画を立てようという方向は間違っている。パーソントリップ調査のようなことを把握するのであればいいと思うが、交通行動を把握しようとしているのか、計画に対する意見を聞こうとしているのか中途半端でわからない。このアンケートを実施することでいい計画が作れると思うのか。

→：第1次計画策定時からのニーズ変化、利用しなくなった人の意見、バス利用者の意見を把握したいと思っている。それ以外にも事業者や観光地でのアンケートも実施したい。

◎：地域公共交通網形成計画であるので、市全体としてどういう交通計画を目指すのかを決めるものである。例えば、地方都市として地域に誇れるような交通ネットワークを構築するとか、公共交通分担率を何%高めるといのが、網形成計画の目標になっていくはずであり、その中で全体方針として公共交通ネットワークを構築することで木津川市をどういう方向にもっていくのかを決めるものである。それがこのアンケートにより出てくるのか。

→：公共交通の利用促進をしていく中で、市民や利用者のニーズを聞きたいというのがこのアンケートの考え方である。

市全体の地域公共交通の利用者数の増加を大きな目標にしたいと考えており、今回の策定方針の骨子で提案したいと考えていた。それに向けた目的を確認させていただきたいと思っている。平成26年度から利用者数も増え、免許自主返納者数も増加しており、この流れで、公共交通を見直していただきたい、市民に少しでも公共交通を利用していただきたいので、利用促進も含めた計画にしていきたい。

◎：そういった方針が示されていれば、議論の方向も違うだろう。

○：アンケートを行わなくても、市民からの意見は既にいろいろ出てきているだろう。請願書や嘆願書も提出されており、そういった声があるのに、改めてアンケートで把握を行うというのは無駄ではないか。請願書や嘆願書の扱いについても説明していただけないか。

◎：コミバスについては、ルートや路線をどうするのかはこの協議会の場で常に議

論されてきている。ルートについては変えないのか、どういう条件があれば変えるのかという基本的なことを第2次計画の策定時には議論しなければいけないが、そういうことはアンケートからは出てこない。

→：新規路線については、第1次計画で新規路線の考え方についてのガイドラインが既に定められているので、資料8で見直し案を説明する。

◎：アンケート内容の説明については省略し、まず、資料8について議論した後に、アンケートを実施するか否かをお諮りしたい。

■コミュニティバスの新規路線について

○：公共交通というのは、事業主体である市が市民サービスとしてコミュニティバスを運行するのが基本である。新たな路線をつくるには、ガイドラインに沿ったものしかできないというのは無茶ではないか。高齢化率が40%を超えるというのは、事実をあげているのに過ぎないではないか。

→：第1次計画で定められている現在のガイドラインでは、新たな路線の導入条件が3点定められているが、そのうちルート設定条件については、デマンドタクシーが休廃止されたルートを基本とするようになっており、新規路線を設定するのが難しいものとなっている。このため、第2次計画において、条件を見直すことにより、より新規路線が検討しやすくなるよう見直しについて提案させていただいている。

◎：こういったことをしっかりと議論していくのが、網形成計画のプロセスである。第1次計画で書かれているガイドラインを第2次計画でもそのまま踏襲するのか、違うものにするのか、そもそもガイドライン自体をやめるのかを議論する必要がある。こういったことが決まっていないと、意見が出てくるたびに、路線をどうするのかを議論することになるため、ここで方針を決められるよう議論しなければならない。なぜ最も重要な議論が最後に出てくるのか、これを議論するのが網形成計画である。

○：新規路線の検討についての条件は硬直的だと感じた。今回少し緩和していくという事だが、提出された嘆願書の取り扱いについても、ガイドラインを満たしているかどうかで判断するのが、親切な扱いではなかったか。3月の協議会では、嘆願書の取り扱いについては市民アンケートを実施するので、その結果を踏まえて協議会で議論いただきたいということであった。

また、3年前に加茂木津路線を検討する際には、市から法花寺野経由で案が出てきたが、その場合はガイドラインの条件を満たしていたのか。今のガイドラインでは、地域組織は構成員5名以上、代表者1名選出となっているが、見直し案では自治会や老人会を基本とするなどハードルが高くなり、上から押し付けているように感じる。次期計画に向けた課題の中で、居住地から医療機関や買物施設まで直接行けるルートや市街地と連絡するルートの整備要望があると書かれているように、高齢化に伴いニーズも変わってきているので、第2次計画では市民の要望も取り入れて、条件に入れ込まないと、本当の意味で市民に寄り添ったものにならないのではないかと。

○：第2次計画でも施策の柱を決めて施策を決めて、事業内容を決めるというプロセスを踏むと思うが、第2次計画は第1次計画をほぼ踏襲するということがあったので、基本的に施策の柱や施策については第1次計画とほぼ同じものとなり、それに加えて新たな施策の柱や施策、今後の5年間で踏まえた新たな事業内容を加え、その上で議論していかなければならないのではないかと。アンケートはその枠組についてどうなのかという検証を行うために行い、単に課題抽出のためだけに実施するのはもったいないのではないかと。

◎：第1次計画の施策ツリーをみるという意見は、頭の整理ができていいと思う。

施策の最初にコミュニティバスの運行が上がっているが、本来であれば、鉄道や路線バスもしっかりと書かれているべきである。鉄道は事業者がしっかりと取り組んでおられるが、鉄道はこうあるべきだと唯一言えるのはこの協議会の場であるので、鉄道事業者と相談しながら、このまちをよくしていくためには鉄道としてどう対応していくべきかをしっかりと計画に盛り込むべきである。情報提供の充実については、MaaSなど、世の中の変化に対応したものを盛り込んでいくべきである。

骨子ができてからアンケートしないとわからないというものがあれば、アンケートを実施すればいい。骨子に当たるものは少なくとも決めなければいけないので次回以降も議論するとして、アンケートをこのまま行うかどうかは決めておかないといけないだろう。

○：アンケートは実態を調べるために行うものであり、実態を前面に出して、こういうところが不足しているので、アンケートで充実させるというような趣旨を説明してほしい。今の状況で単に作業のプロセスにアンケートを含めるというのではあまりにも無駄ではないか。

○：第2次計画の計画期間が令和2年4月からということで、これからアンケートをすると策定スケジュールが後ろにずれ、第2次計画の内容を検討する時間がなくなるので、市民からの意見を把握する必要がある「公共交通だより」等も活用して、意見をいただくなどすればいい。計画の本質をもっと議論すべきだろう。

◎：アンケートはコストも労力もかかるため、実施するのであれば効果が得られることがわかった段階でやるべきであり、現段階では保留したほうがいいのではないか。

→：市としてはアンケートをしたいと思うが、協議会の意見を踏まえて判断していきたい。

○：3月の協議会において、請願書の取り扱いについては市民アンケートの結果を踏まえ協議会で議論すると議会答弁されたと説明があったが、今後はどのように議会で説明するのか。

→：アンケートの実施の有無は協議会での判断になるので、協議会での協議の結果としてアンケートを実施しないという判断になれば、議会でもそのように説明していく。第2次総合計画策定時にも一部公共交通に関するアンケートを取っているので、それで補完できるのがあればいい、必要な内容が出てきたときにアンケートを実施することも考える。

◎：まずアンケートをしてから考えましょうというのは、計画のあり方ではないということを示したかった。骨子をしっかりと固めて、その上で必要があればアンケートを行うという方向で進めさせていただく。

<異議なし>

(3) その他

①次回協議会の日程について

→：次回の協議会は、本日のご意見を踏まえ、計画の骨子案を中心に議論いただく。日程については、議長と事務局で調整を行い、改めて通知させていただく。

②その他

3. 閉会

以上

その他 特記事項	なし
-------------	----